

今号の特集でご紹介したように、浜松は医療体制に恵まれたまち。そのきっかけをつくったのが、昭和49年(1974年)に設立された浜松医科大学です。

現在、市内の各医療機関では数多くの浜松医大卒業生が活躍していますが、

「浜松にはもっと古い医学の歴史があつて、その土壌の上に医大という花が開いたんですよ」と語るのは、浜松医大の寺尾俊彦学長(写真)です。



# わが心の浜松

昭和49年

真IIです。

浜松における医学のルーツは、明治7年(1874年)、当時の浜松県立浜松病院に開設された浜松医学学校。ちなみに東京大学は明治10年(1877年)、東京開成学校と東京医学学校が合併して設立され、明治19年(1886年)に東京帝国大学となりました。この事実から、浜松医学学校がいかに古い学校であったかが分かります。

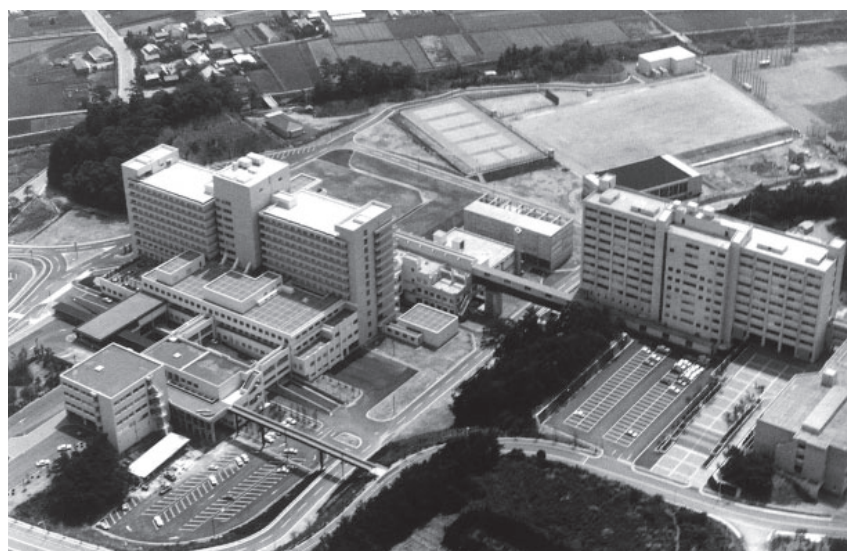
「それだけではありません。明治11年(1878年)、浜松医学学校の新進気鋭の医学者たちが『七科約説』というわが国初の翻訳医学書を出版しました。これは米国の医学書を翻訳したもので、上編・下編合わせて2000ページを超える大著。当時、人口わずか1万2000人程

## 長い歴史の土壌に花開く 浜松医科大学の設立

度だった浜松で、このような先進的な本を出版できたことは、まさに驚異的というほかありません」

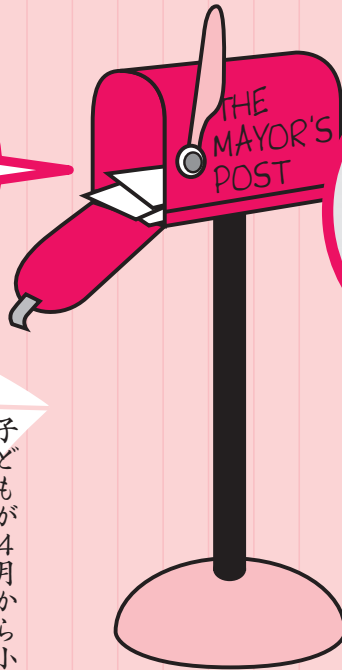
しかし、「七科約説」を世に出した浜松医学学校は、明治13年(1880年)に廃校になってしまいました。明治9年(1876年)に浜松県が静岡県に合併され、その4年後、予算不足のため医学教育は静岡病院に集約されることになったからです。「もし浜松医学学校が存続していたら、浜松はもっと変わっていた」と寺尾学長は残念がります。

「しかし、不思議な巡り合わせで、浜松医学学校設立からちょうど100年後の昭和49年、わが浜松医大が開校しました。静岡県は長く無医大県でしたが、その間も浜松で遠江医学会が活動し、高度な医学を根付かせてきたのが大学設立につながったと思います。今後、医療の世界はますます高度化、専門化していくと予想されますが、浜松医大は最先端の医療を担う機関として、自らの役割を果たしていこうと考えています」



浜松医大の開校から4年後の昭和53年(1978年)、医学部附属病院が完成したころの航空写真

# 市長への手紙



## 最も大切なことは「心」の教育

前号のテーマは「小・中学校の教育」。これに関する市民の関心は非常に高いようです。今回は、この春から小学校に上がるお子さんをお持ちの読者からの手紙です(誌面の都合で内容を一部編集しています)。

子どもが4月から小学校に入学します。期待と不安と…、さまざまな気持ちがありますが、子ども本人以上に強くなっています。

そんな時、「チエンジ！ハママツ」第2号が届きました。子どもの教育についての浜松市の取り組みが詳しく書かれていましたので、とても興味深く読みました。

やっぱり、親としては「学力」は大事です。でもそれ以上に、教育長が語っていた「心」の教育が一番大事だと思っています。そのために親は何をするべきか…。わたしには、はつきりした答えは見つかりません。今の子どもたちには、わたしたちの時代にはそんなに騒がれていなかったじめ、不登校が社会現象化し、子ども同士の付き合い方も難しくなっているようです。自分が子どもに当てるべきことを、今の子どもに当てはめられないので、とても不安にな

ります。そこで「教育の拠点は学校にある」という言葉に頼もしさを感じました。

「チエンジ！ハママツ」を読んで、わたしの不安も少し和らぎました。それでも、すべてを学校に任せるのではなく、まずは親が一生懸命にならないといけません。なぜなら、1日の内、家にいる時間が学校にいる時間より長いのですから。

4月からの夕食では、子どもにも小学校であつたことを聞いてあげたいです。そして、たくさんの人と遊んだり、時には意見をぶついたりすることで、心の大きな人間に育ってほしいと願っています。

(今回は「浜松の医療」をテーマに、市長への手紙を広聴広報課まで郵便でお願いします。字数は600字程度。匿名でも構いません。住所は裏表紙に記載。締め切りは平成21年5月8日)

※当コーナーへ寄せられた主なお手紙は次回の誌面で紹介させていただきます。なお、個別に回答はいたしません。

### 特集タイトルの由来

## ヒポクラテス

Hippocrates

(紀元前460年ごろ～紀元前377年ごろ)

## 医師の根本的な医療倫理を誓う

エーゲ海のコス島で生まれたヒポクラテスは、それまでの迷信や呪術にとらわれていた医療を改革し、「体液説」に基づく科学的な医学の礎を築きました。その業績により「医学の父」「医聖」「疫学の父」と呼ばれます。また、彼がギリシャの神々に誓ったとされる「ヒポクラテスの誓い」は、医師が守るべき根本的な医療倫理を謳ったものとして、現代まで語り継がれています。